

『授業改善推進拠点校』令和3年度～令和5年度

児童・生徒の学力向上を図るため、都が行う「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果を全国学力・学習状況調査の結果等と関連付け、学びに向かう力等に注目しながら分析し、指導と評価の一体化による授業改善を組織的に推進する取組を実践的に研究・開発し、その成果を全都に普及することを目的として、令和3年度より3年間研究校に指定されました。

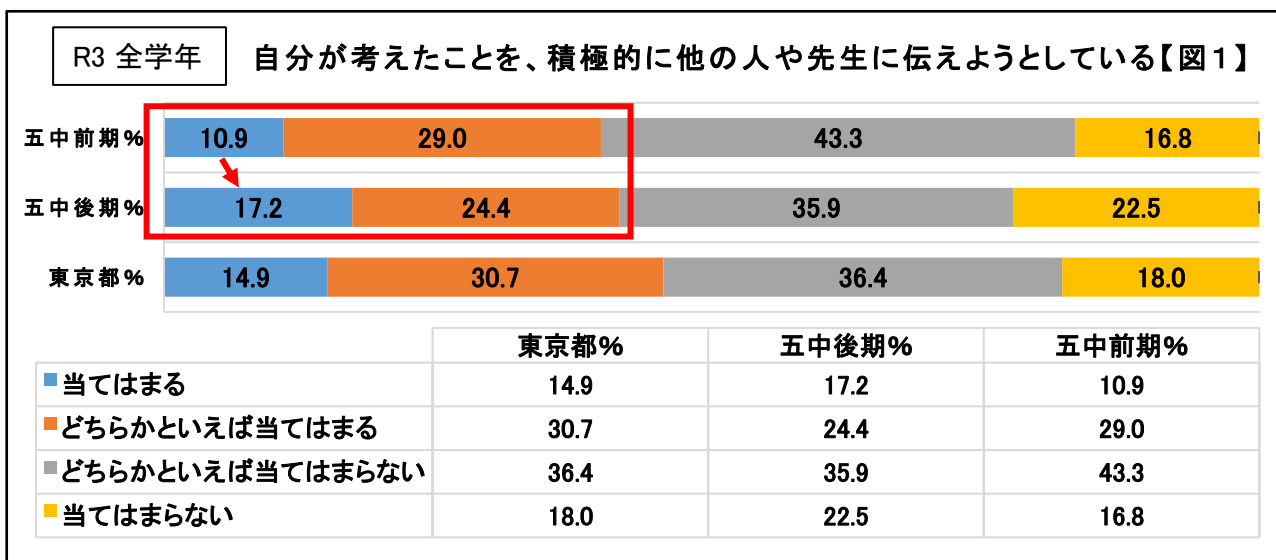
令和3年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」は、5月に前期調査、11月～12月に後期調査が行われました。昨年度(令和3年度)～今年度(令和4年度)の五中の取り組みについて紹介します。

～〈生徒の学習の進め方〉の調査結果から見てきたことと、取り組んでいること～

A 話し合い活動の場面設定(令和3年度)→さまざまな対話的な学びの実践(令和4年度)

「自分が考えたことを積極的に他の人や先生に伝えようとしている」で当てはまると答えた生徒が約10%と低かったこと【図1】から、『表現する場の設定』や『思考するための発問の工夫』が必要であると考え、話し合い活動の場面設定→安心して自分の意見が言える環境設定→意見を言ったという自覚を持たせる。→他者の意見を聞いて、自分の考えを修正し、理解を深める。→**わかる!授業へ**を目指して取り組んでいます。

令和3年度後期の調査結果では、当てはまる生徒の割合が上昇しており、成果が一定の成果が見られることから、引き続き今年度も『さまざまな対話的な学びの実践』を通して、学力の向上を目指していきます。



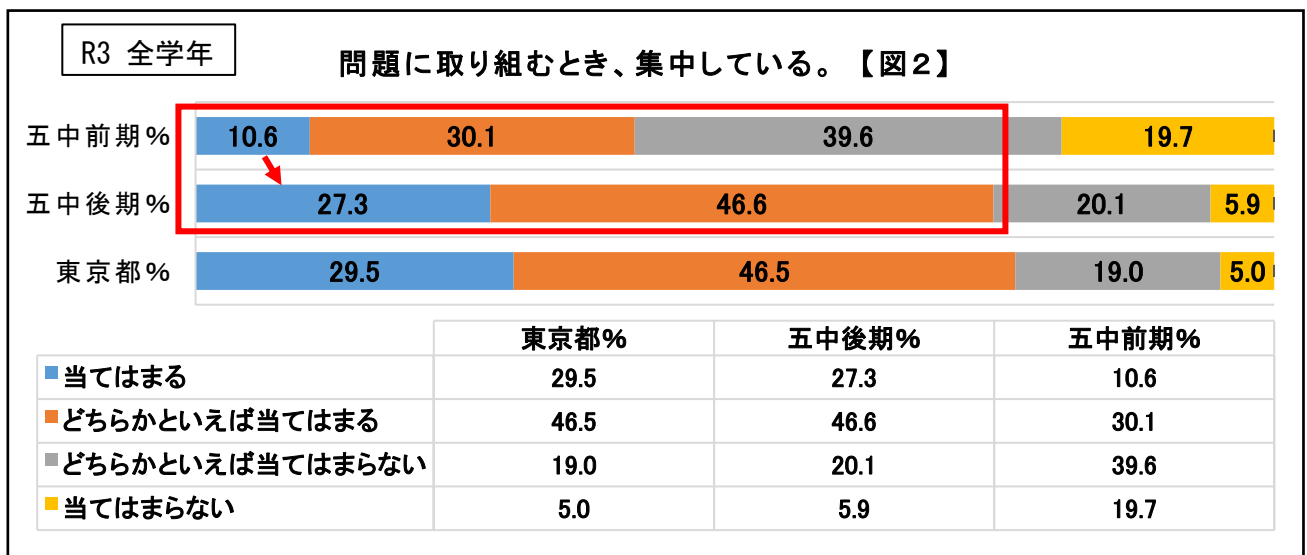
B ユニバーサルデザイン化(令和3, 4年度)

学習の進め方の質問「問題に取り組むとき、集中している」で、当てはまると答えた生徒が約10%と低かったこと【図2】から、

☆集中力の欠如(前期)
問題に取り組むときの集中力が低い!

テスト問題やプリント類などのユニバーサルデザイン化
「考えやすく、見やすく、わかる」授業に!

を意識し、まずはテスト問題の記述形式から取り組み、授業のプリント類などでも可能なところから取り組んできました。【図2】の調査結果後期から、大きく改善されていることが確認できました。今年度も引き続き、ユニバーサルデザイン化を意識して、授業を進めていきます。



C その他

- (1) 『ループリック(達成目標)』…について情報を持ち寄り、指導と評価の一体化の実現に向けて、理解を深め、今後実践できるように目指しています。
- (2) 『家庭学習による基礎学力の定着』…学力向上のためには、学校だけでなく家庭での取り組みも大変重要です。学校からは、「家庭学習の手引き」を配布しています。各教科からアドバイスもありますが、気になるニュースをご家庭で話題にするだけでも違ってきます。ぜひ、生徒が学校でどのようなことを学んでいるのか、ご家庭でも話を聞いてみてください。話をすると理解が深まります。よろしくお願い致します。



令和3年度の本校研究内容ならびに各教科の取り組みについては、リーフレットをご覧ください。